

横河電機株式会社

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年11月6日

1. 2019年3月期 第2四半期 連結決算の概要

取締役 常務執行役員 経営管理本部長 穴吹 淳一

2. 決算補足資料

四半期別実績／地域別売上高／営業外・特別損益／受注残高
研究開発費・減価償却費・設備投資／貸借対照表／キャッシュフロー
トピックス／株価の状況

3. 現状認識と今後の見通し

代表取締役社長 西島 剛志

2019年3月期 第2四半期 連結決算の概要

対象期間：2018年4月1日～2018年9月30日

取締役 常務執行役員 経営管理本部長
穴吹 淳一

■ 第2四半期実績：増収増益、堅調に推移

- ・サマリー : 受注が増加 (前年比+7.5%) 「増収」+「粗利率改善」で利益も堅調
- ・セグメント別 : 制御堅調、計測前年並み、航機その他減収減益
- ・地域別 : 中国堅調、中東・インドは受注が増加
- ・業種別 : 化学、Upstream増加傾向

■ 通期業績予想：上方修正、増収増益の見通し

(受注高+100億円、売上高+50億円、営業利益+30億円、当期純利益+40億円)

- ・修正理由 : ①堅調な制御事業：OPEX投資の継続、CAPEXで回復の兆し
②子会社の株式譲渡
③前提為替レートの見直し(為替レート：USD105円→USD110円)
- ・リスク : 米中関係・中東情勢などによるマクロ経済や投資の減速など

決算サマリー（対前年）

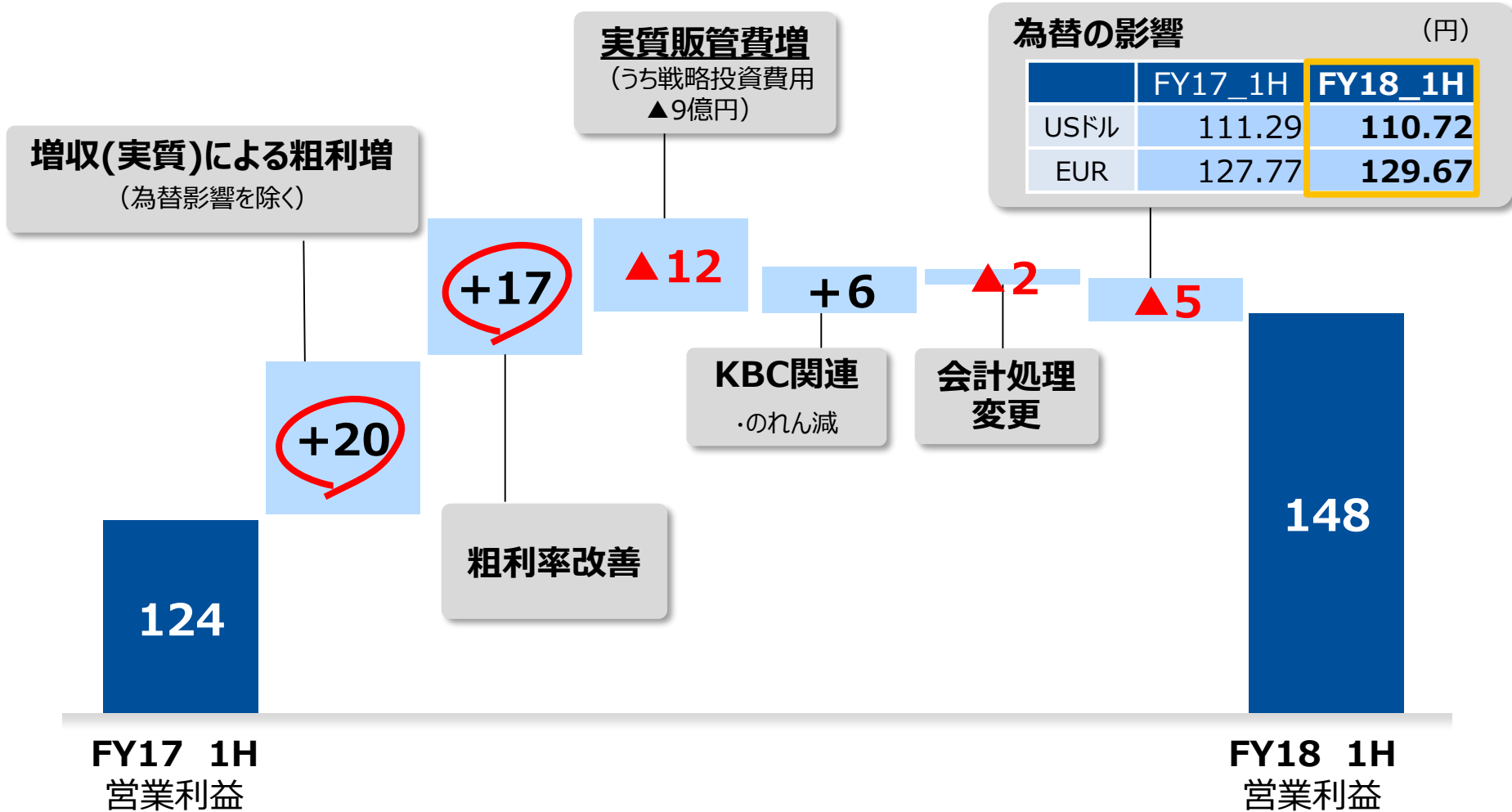
- ◆受注・売上 : 制御事業が堅調に推移し、**増加**
- ◆営業利益 : 増収および粗利率の改善により**増益**
- ◆四半期純利益 : 前年同期に特別利益25億円を計上したこともあり、ほぼ**前年並み**

(億円)

	FY17_1H	FY18_1H	差異	増減率	為替影響
受注高	1,989	2,137	+148	+7.5%	▲22
売上高	1,880	1,904	+24	+1.3%	▲20
営業利益	124	148	+24	+18.5%	▲5
ROS(%)	6.6	7.7	+1.1pt	-	-
経常利益	123	162	+39	+31.3%	▲4
親会社株主に帰属する四半期純利益	96	101	+5	+5.6%	▲3
EPS(円)	35.88	37.96	+2.08	+5.8%	-
為替レート 1米ドル=	111.29円	110.72円	▲0.57	-	-

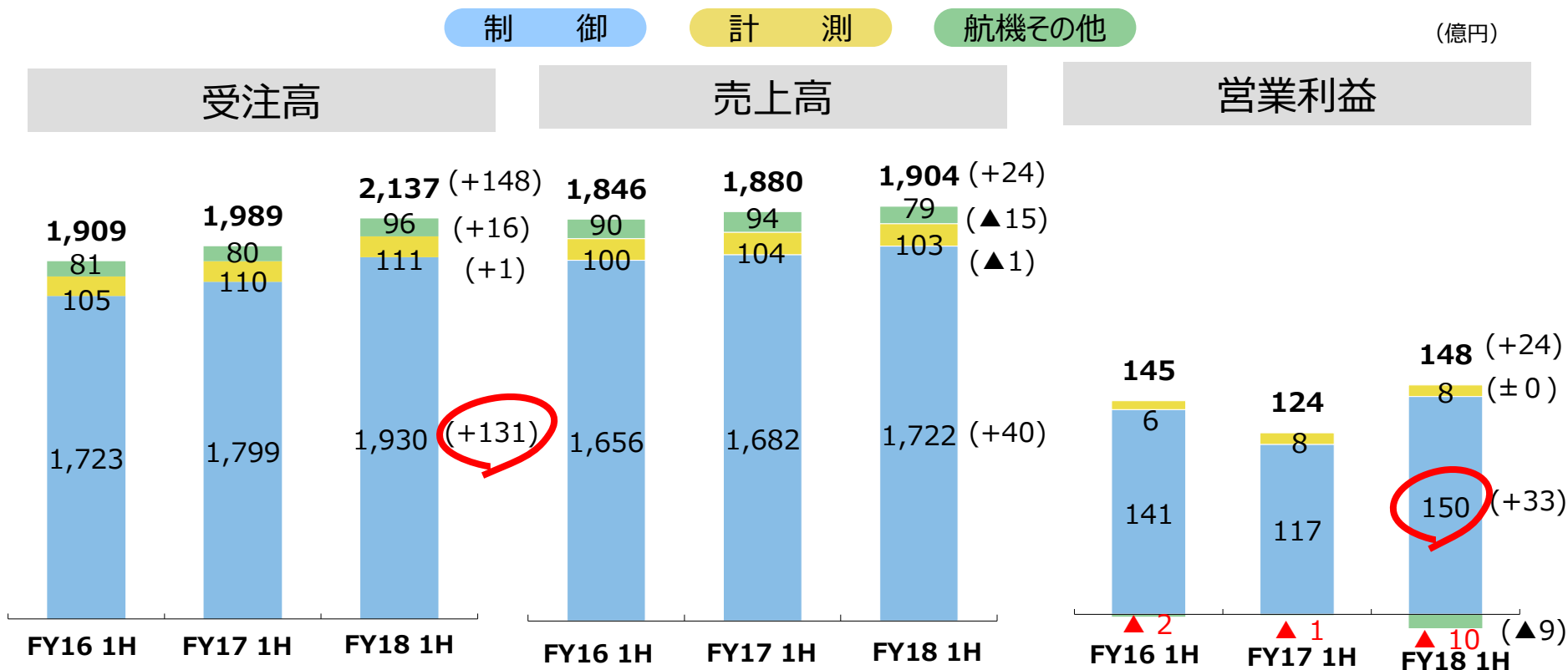
営業利益分析（対前年同期比）

(億円)



セグメント別 受注・売上・営業利益

- ◆ 制御事業 : 受注高、売上高ともに海外の製品販売を中心に堅調
営業利益は増収および日本を中心に粗利率が改善し、増益
- ◆ 計測事業 : 前年並み
- ◆ 航機その他事業 : 減収に加え、粗利率低下により減益



制御地域別 受注・売上高

◆アジア（中国・インド）、中東を中心に海外が堅調

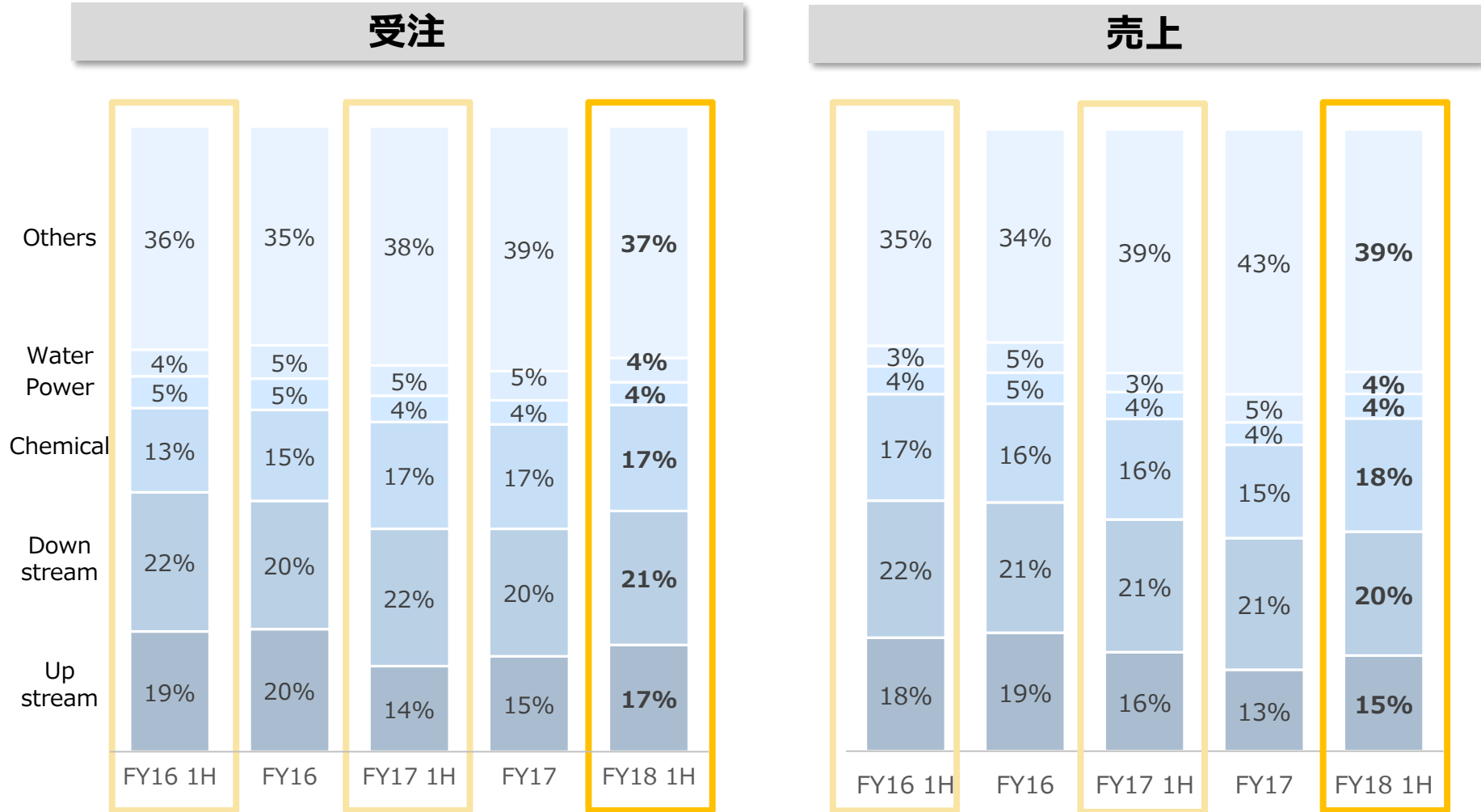
(億円)

受注高	FY17 1H (A)	FY18 1H (B)	前年比 (B-A)	売上高	FY17 1H (A)	FY18 1H (B)	前年比 (B-A)
日本	534	540	6	日本	477	485	8
アジア	609	654	45	アジア	536	581	45
(東南アジア・ 極東)	(350)	(338)	(▲12)	(東南アジア・ 極東)	(309)	(321)	(12)
(中国)	(208)	(235)	(27)	(中国)	(173)	(208)	(35)
(インド)	(51)	(81)	(30)	(インド)	(54)	(52)	(▲2)
欧州・CIS	253	280	27	欧州・CIS	228	242	14
中東アフリカ	245	267	22	中東アフリカ	259	235	▲ 24
北米	120	148	28	北米	143	146	3
中南米	38	41	3	中南米	39	34	▲ 5
海外小計	1,265	1,390	125	海外小計	1,205	1,237	32
合計	1,799	1,930	131	合計	1,682	1,722	40

<参考> 制御業種別 受注・売上高比率 (構成比)

* FY18計画レート換算

◆ 化学、Upstreamが増加傾向

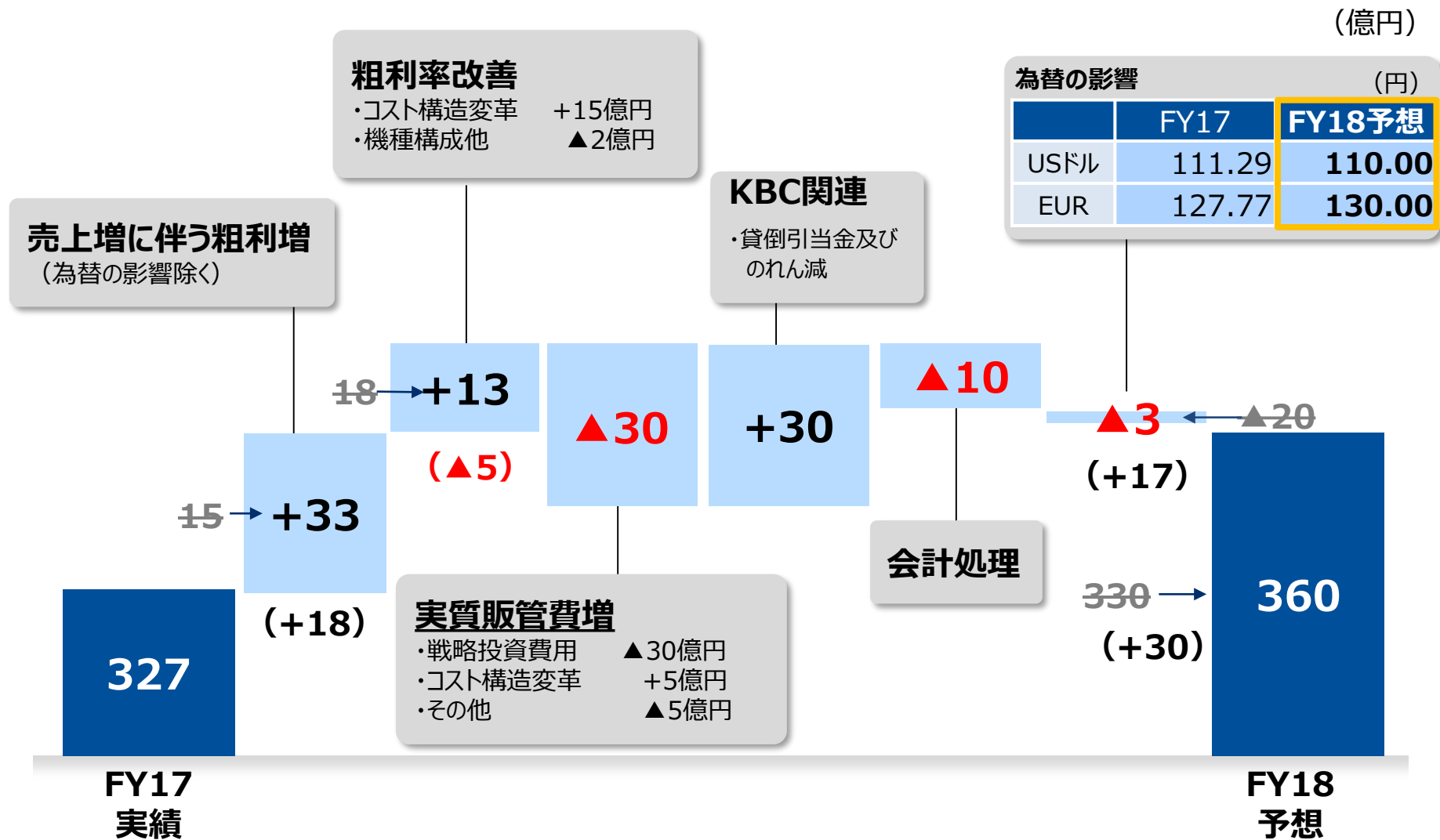


業績予想（修正あり）

◆FY18増収増益：堅調な制御事業、子会社の株式譲渡、為替レートの見直し等を反映し上方修正
 為替影響→受注+7億円、売上+7億円、営業利益+17億円 (億円)

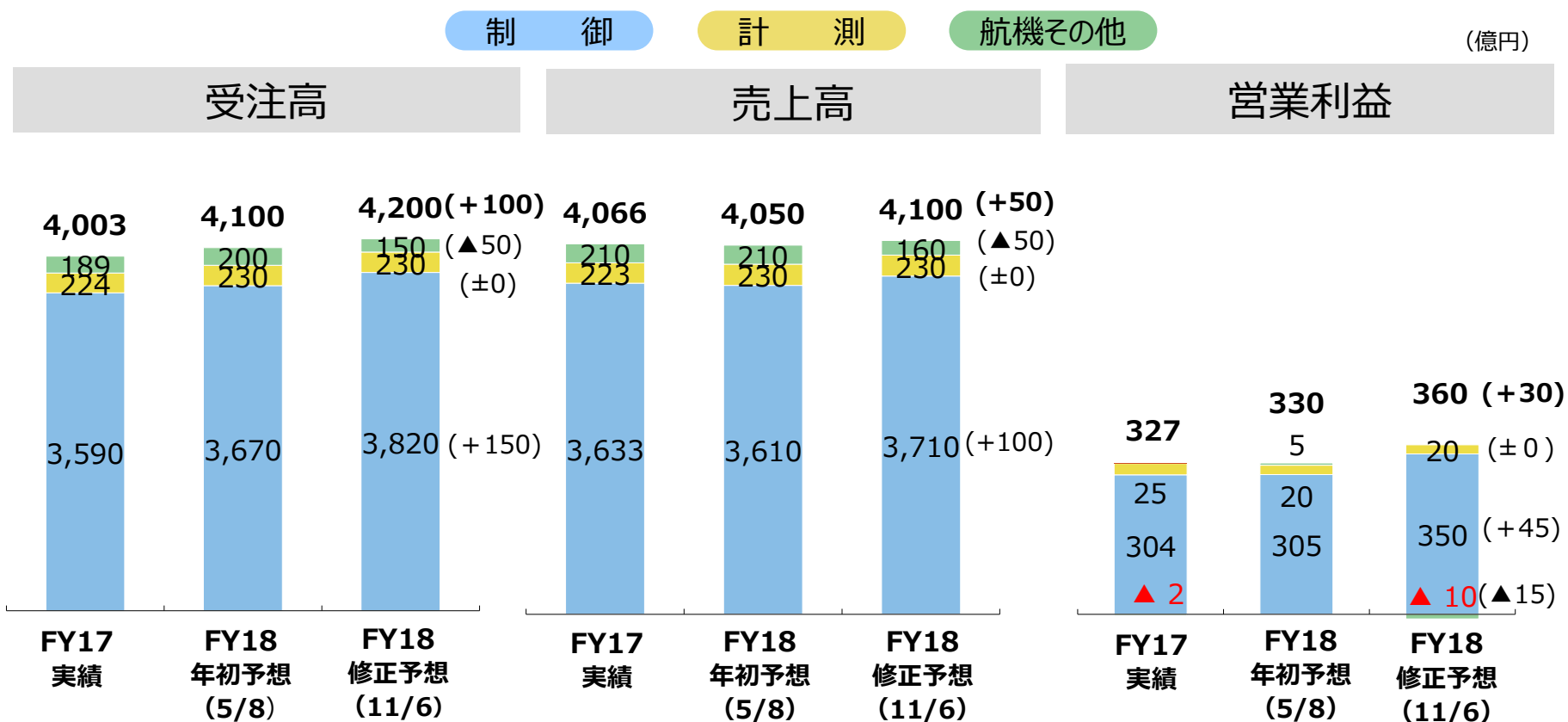
	FY17実績 (A)	FY18予想 (5/8 B)	FY18予想 (11/6 C)	前回予想比 (C-B)	前年比 (C-A)	伸長率 (C÷A-1)
受注高	4,003	4,100	4,200	+100	+197	+4.9%
売上高	4,066	4,050	4,100	+50	+34	+0.8%
営業利益	327	330	360	+30	+33	+10.1%
ROS(%)	8.0	8.1	8.8	+0.7pt	+0.8pt	-
経常利益	333	320	360	+40	+27	+8.1%
税引前利益	294	320	380	+60	+86	+29.3%
法人税等	79	105	125	+20	+46	+58.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	214	215	255	+40	+41	+19.2%
EPS(円)	80.27	80.46	95.50	+15.04	+15.23	+19.0%
為替レート	110.70 円	105円	110円	+5.0円	▲0.7円	-
1米ドル=						

FY18営業利益増減要因 (修正あり)



セグメント別 受注・売上・営業利益（修正あり）

- ◆制御事業 : 海外中心に上方修正。増収増益の見通し
- ◆計測事業 : 修正なし。ほぼ前年並みの見通し
- ◆航機その他事業 : 子会社の株式譲渡などにより、下方修正。減収減益の見通し



制御地域別 受注・売上高 予想（修正あり）

- ◆事業進捗、為替レート等に合わせて予想を修正
- ◆アジア（中国・インド）、中東を中心に海外が堅調

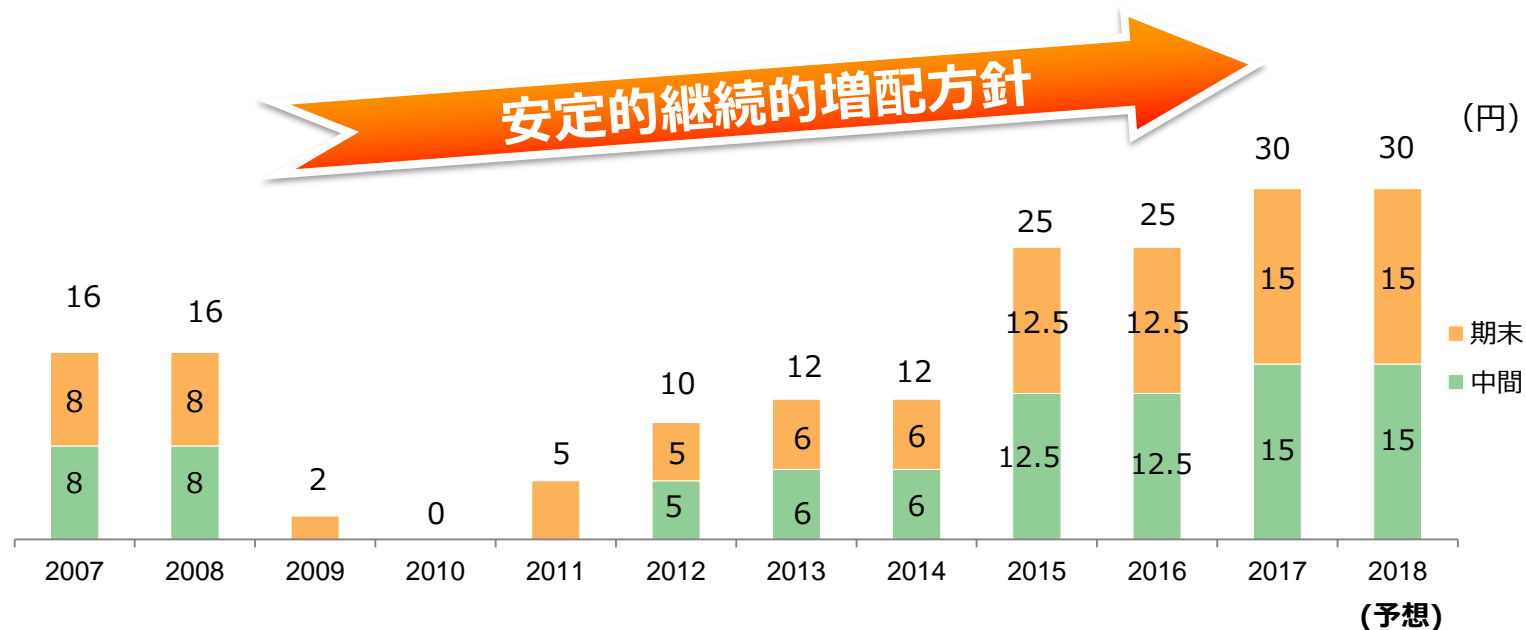
（億円）

受注高	FY18予想	FY18 1H	FY18 2H	FY18予想	売上高	FY18予想	FY18 1H	FY18 2H	FY18予想
	(5/8)	実績	予想	(11/6)		(5/8)	実績	予想	(11/6)
日本	1,100	540	560	1,100	日本	1,100	485	615	1,100
アジア	1,190	654	586	1,240	アジア	1,170	581	654	1,235
(東南アジア・ 極東)	(670)	(338)	(347)	(685)	(東南アジア・ 極東)	(680)	(321)	(379)	(700)
(中国)	(400)	(235)	(180)	(415)	(中国)	(370)	(208)	(197)	(405)
(インド)	(120)	(81)	(59)	(140)	(インド)	(120)	(52)	(78)	(130)
欧州・CIS	630	280	350	630	欧州・CIS	610	242	368	610
中東アフリカ	400	267	213	480	中東アフリカ	390	235	175	410
北米	280	148	152	300	北米	270	146	149	295
中南米	70	41	29	70	中南米	70	34	26	60
海外小計	2,570	1,390	1,330	2,720	海外小計	2,510	1,237	1,373	2,610
合計	3,670	1,930	1,890	3,820	合計	3,610	1,722	1,988	3,710

- ◆ 中間配当金15.0円を決議
- ◆ 期末配当金予想15.0円も変更なし

FY17実績：30円(配当性向37.4%)

FY18予想：30円(配当性向31.4%)

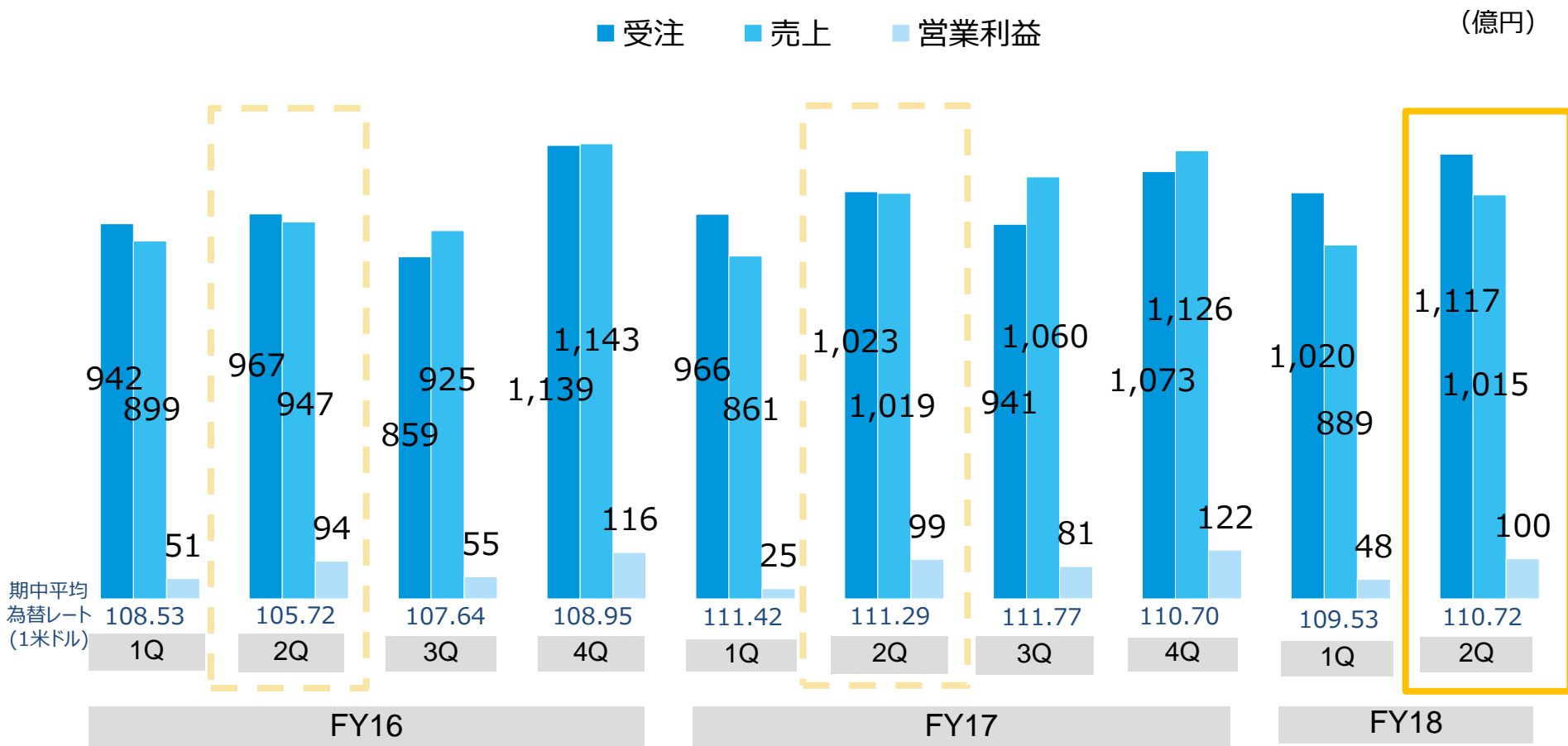


決算補足資料

- ・四半期別実績
- ・地域別売上高
- ・営業外・特別損益
- ・受注残高
- ・研究開発費・減価償却費・設備投資
- ・貸借対照表
- ・キャッシュ・フロー
- ・トピックス
- ・株価の状況

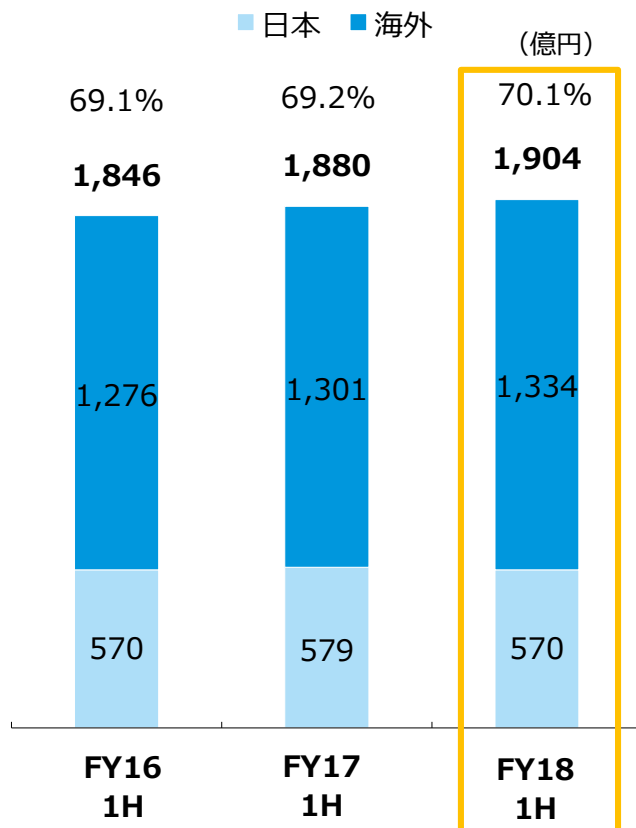
補足：四半期別実績

◆売上高・営業利益は、日本の制御事業を中心に2Qおよび4Qに集中傾向

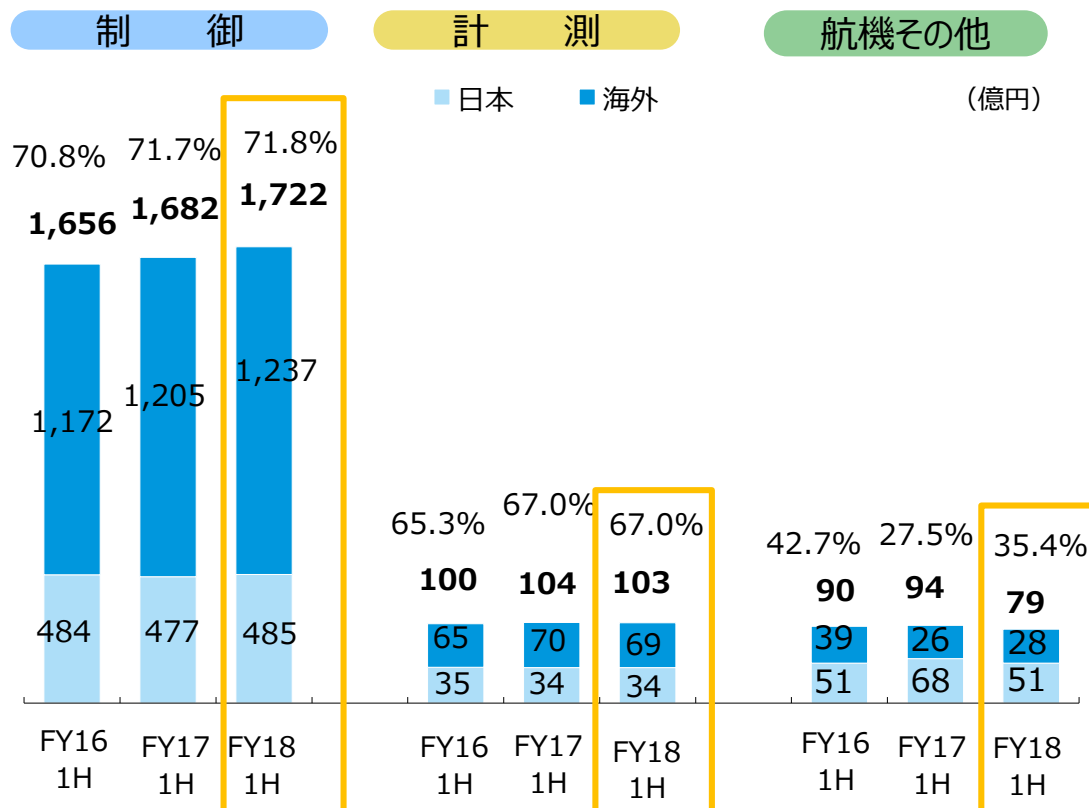


補足：地域別売上高

全社



セグメント別



補足：営業外・特別損益

(億円)

	FY17_1H	FY18_1H
営業利益	124	148
営業外収益	16	20
営業外費用	17	5
経常利益	123	162
特別利益	25	5
特別損失	1	1
税引前利益	147	165
法人税等	51	64
親会社株主に帰属する 四半期純利益	96	101
(税負担率)	30.0%	33.0%

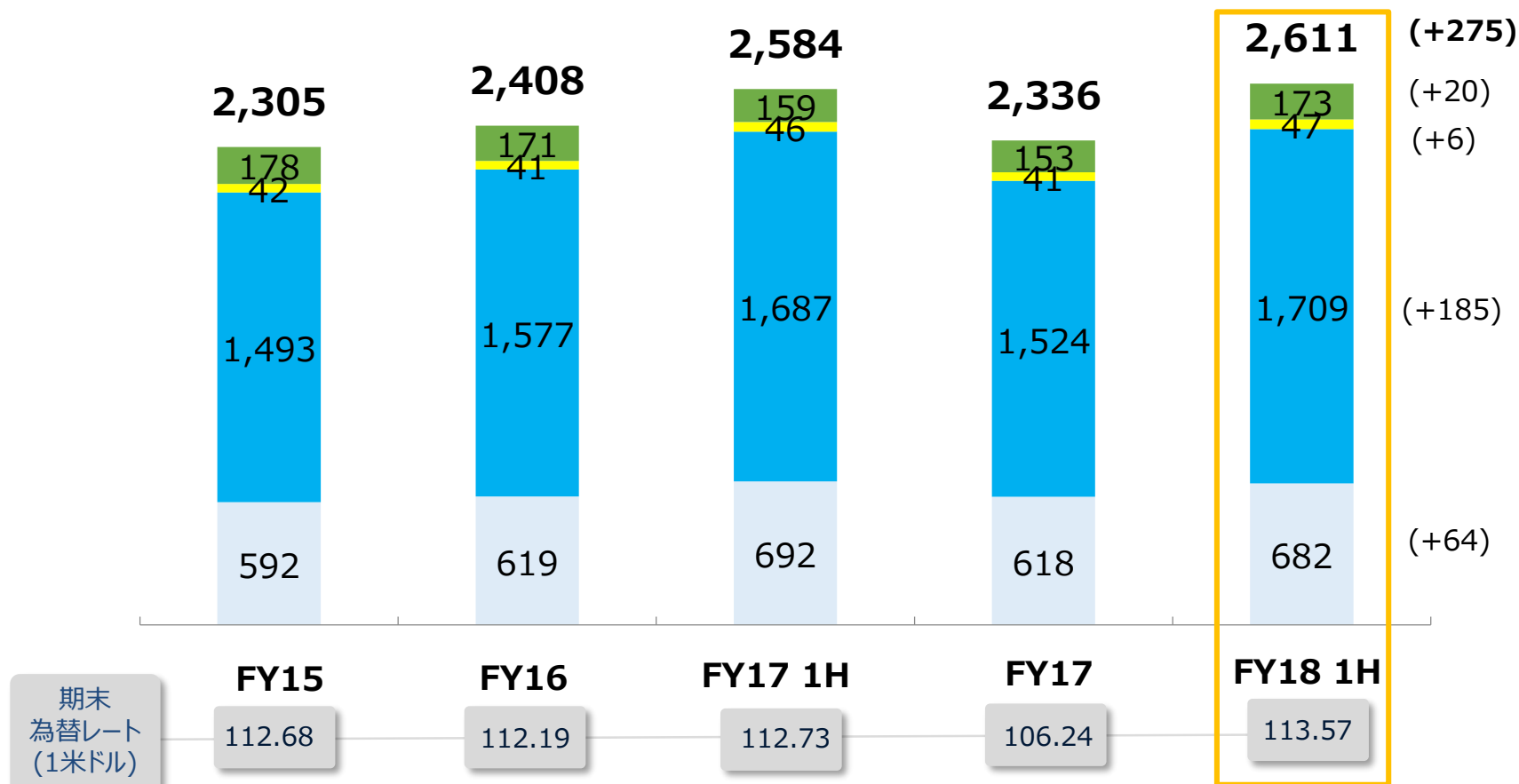
FY17: 固定資産売却益 18億円
投資有価証券売却益 7億円

FY18: 投資有価証券売却益 5億円

補足：セグメント別 受注残推移

(億円)

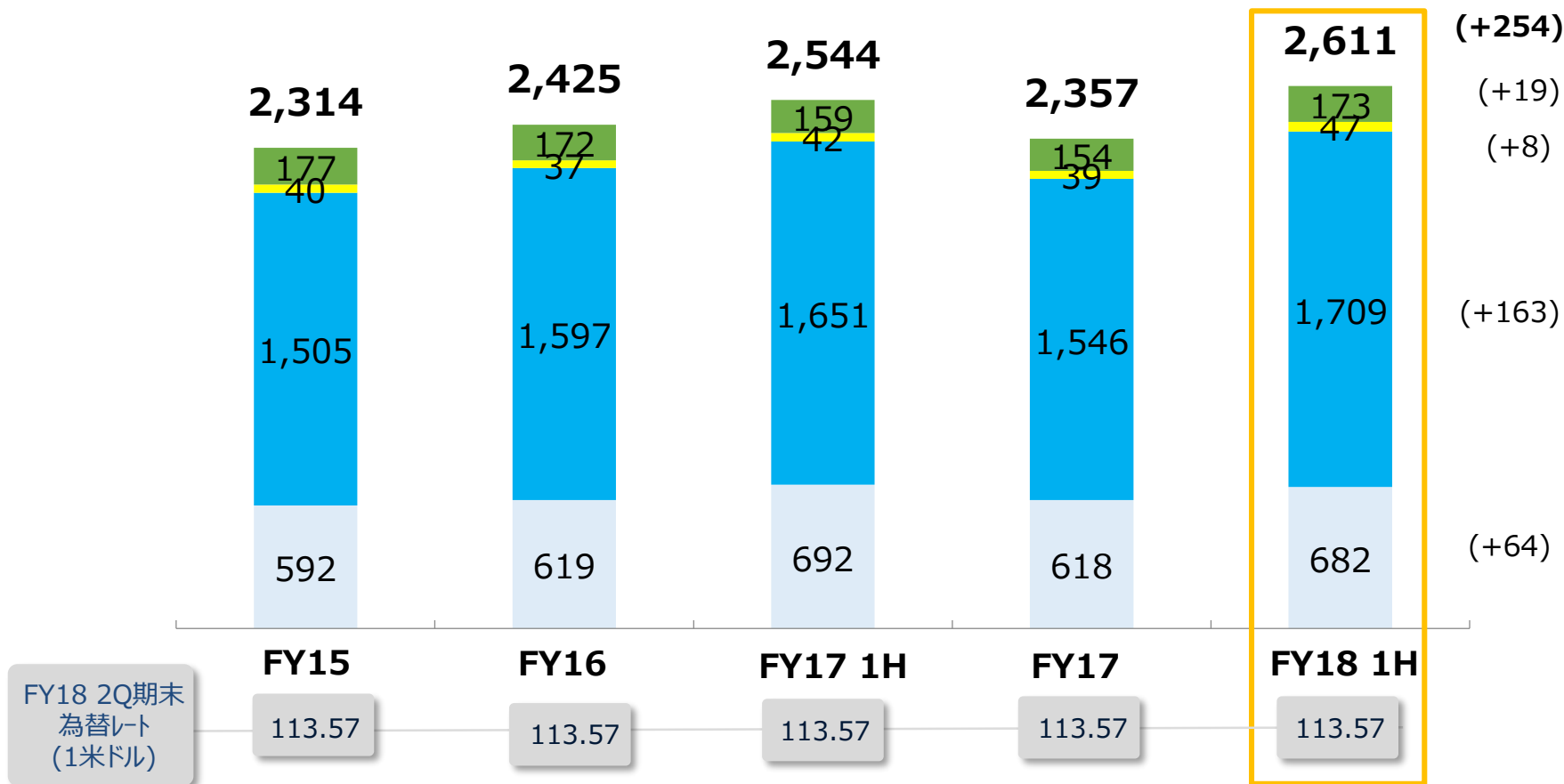
■ 制御（日本） ■ 制御（海外） ■ 計測 ■ 航機その他



補足：セグメント別 受注残推移 *FY18 2Q期末為替レート換算

(億円)

■ 制御（日本） ■ 制御（海外） ■ 計測 ■ 航機その他

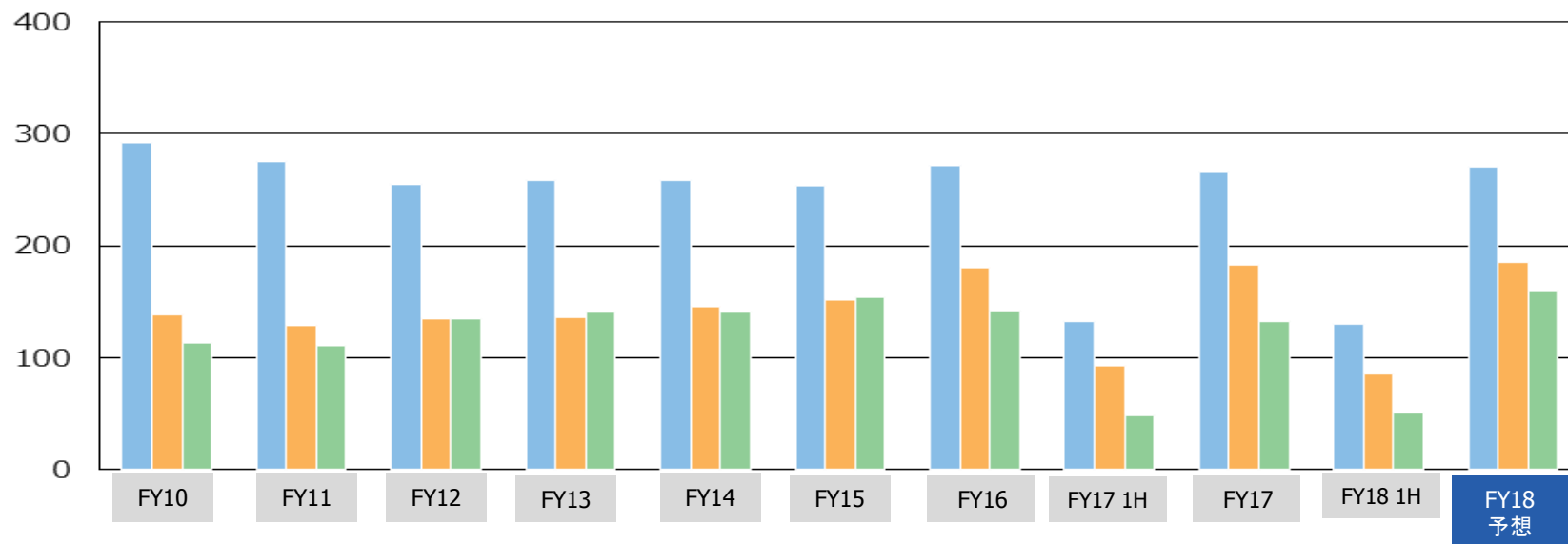


補足：研究開発費・減価償却費・設備投資

◆FY18 設備投資は中期計画戦略投資を前提に微増見込み

■ 研究開発費 ■ 減価償却費 ■ 設備投資

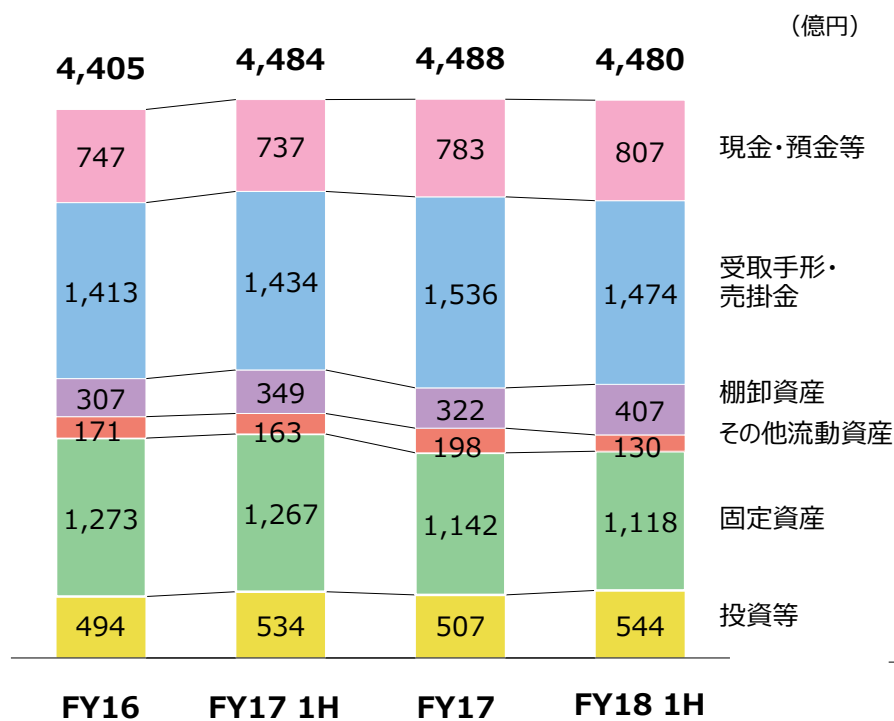
(億円)



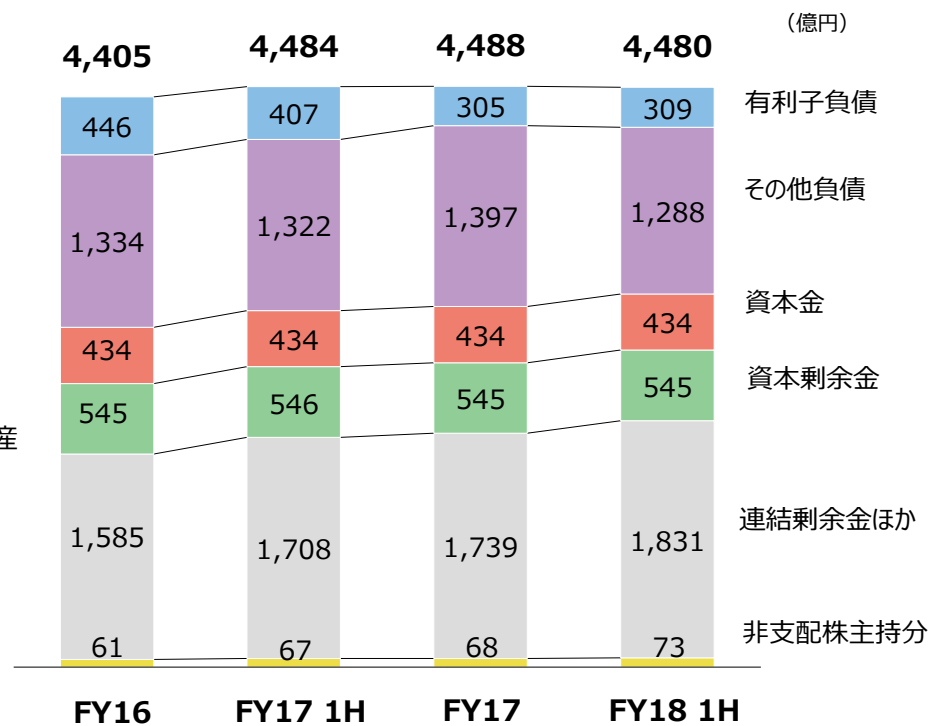
	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17 1H	FY17	FY18 1H	FY18 予想
研究開発費 (対売上高比率)	292 9.0%	275 8.2%	255 7.3%	258 6.6%	258 6.4%	253 6.1%	271 6.9%	132 7.0%	266 6.5%	130 6.8%	270 6.6%
減価償却費 (対売上高比率)	138 4.2%	128 3.8%	135 3.9%	136 3.5%	145 3.6%	151 3.6%	180 4.6%	92 4.9%	183 4.5%	85 4.5%	185 4.5%
設備投資 (対売上高比率)	113 3.5%	111 3.3%	135 3.9%	140 3.6%	141 3.5%	154 3.7%	142 3.6%	48 2.6%	132 3.3%	51 2.7%	160 3.9%

補足：貸借対照表

資産

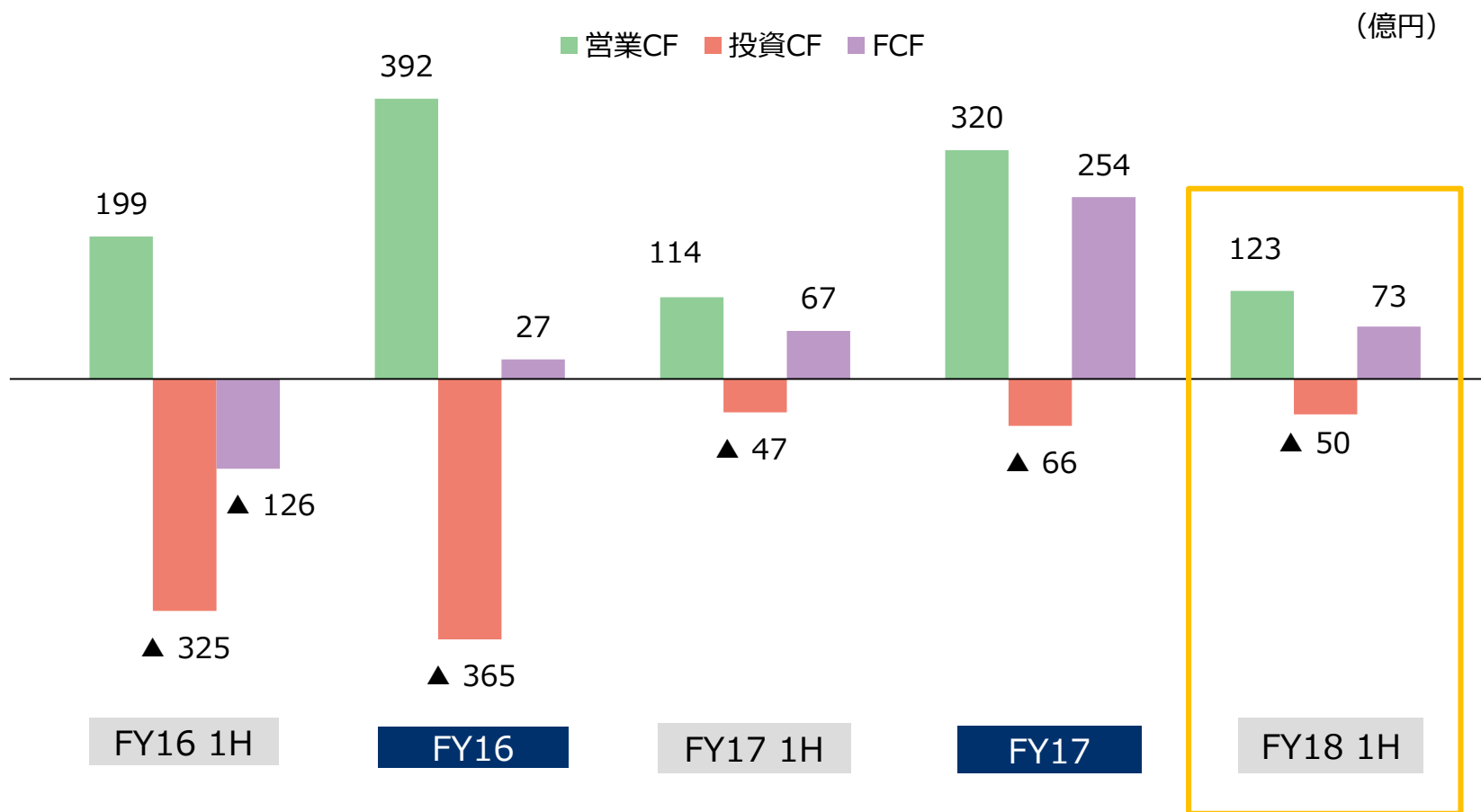


負債・資本



補足：キャッシュ・フロー

◆FY16 1H投資CFには、KBC取得費用266億円を含む



補足：トピックス (8/8～11/6)



8月

「YOKOGAWAレポート 2018」を発行

ノルウェーの石油開発企業Equinor向けに高機能ケミカルインジェクションメータリングバルブ「FluidCom」59台を受注

奈良先端科学技術大学院大学と共同でプラントの自動最適化運転に活用可能な強化学習技術を開発



FluidCom

9月

PETRO プランニングソフトウェアに関するグローバル販売契約をシェブロンと締結

品質安定化のための解析ソフトウェア「Process Data Analytics R1.02」を開発・発売

横河計測が機器の省電力化・高効率化を支援する、7入力の世界最高クラス±0.03%の高精度電力計 プレシジョンパワーアナライザ「WT5000」を開発・発売

「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・アジア・パシフィック・インデックス (DJSI Asia Pacific)」の構成銘柄に2年連続、7回目の選定



WT5000

10月

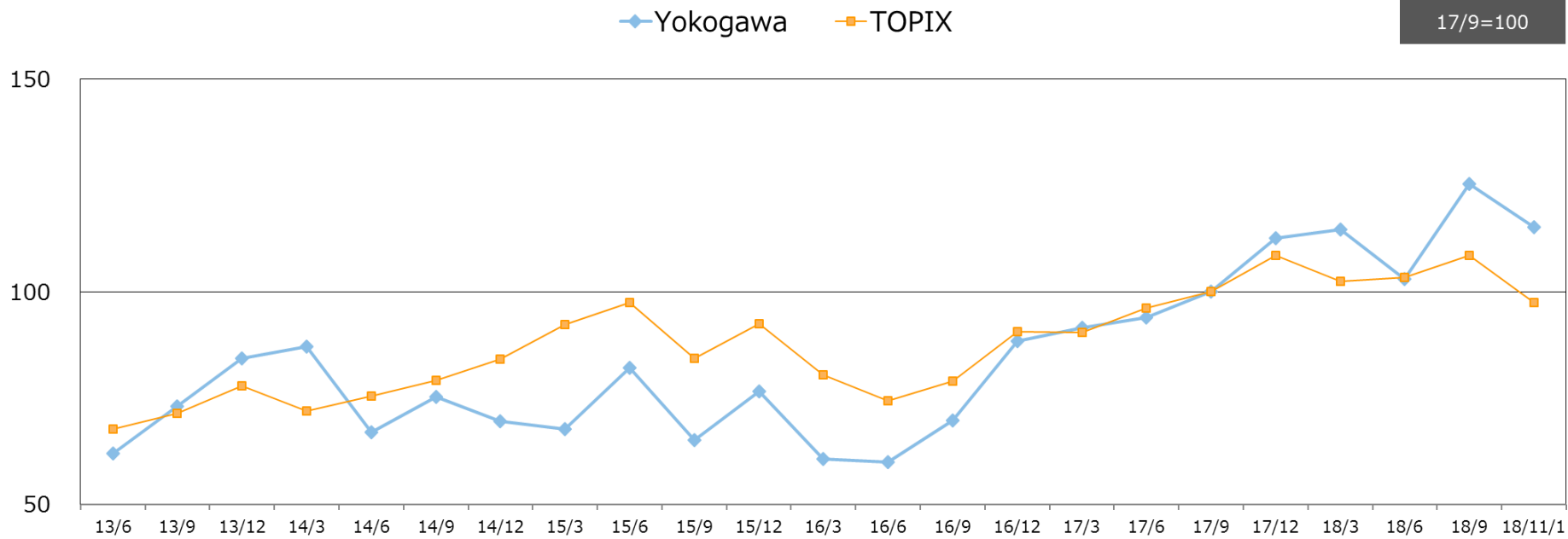
連結子会社である横河電子機器の全株式を譲渡する旨の契約を締結

マルチセンサ入力の4線式液分析計「FLXA402」と変換・伝送・校正・診断の機能を持つ SENCOM™スマートアダプタ「SA11」を開発・発売

※日付は発表月です

補足：株価の状況

17/9=100



(円)

	13/6	13/9	13/12	14/3	14/6	14/9	14/12	15/3	15/6	15/9	15/12	16/3	16/6	16/9	16/12	17/3	17/6	17/9	17/12	18/3	18/6	18/9	18/11/1
Yokogawa	1,187	1,398	1,615	1,667	1,281	1,442	1,333	1,295	1,574	1,247	1,465	1,163	1,146	1,335	1,693	1,752	1,801	1,916	2,158	2,198	1,972	2,403	2,208
TOPIX	1,134	1,194	1,302	1,203	1,263	1,326	1,407	1,543	1,630	1,411	1,547	1,347	1,245	1,322	1,518	1,512	1,611	1,674	1,817	1,716	1,731	1,817	1,632

	13/6	13/9	13/12	14/3	14/6	14/9	14/12	15/3	15/6	15/9	15/12	16/3	16/6	16/9	16/12	17/3	17/6	17/9	17/12	18/3	18/6	18/9	18/11/1
Yokogawa	62	73	84	87	67	75	70	68	82	65	76	61	60	70	88	91	94	100	113	115	103	125	115
TOPIX	68	71	78	72	75	79	84	92	97	84	92	80	74	79	91	90	96	100	109	103	103	109	97



横河電機株式会社

2018年度 第2四半期決算

現状認識と今後の見通し

Transformation 2020

代表取締役社長

西島 剛志

2018年11月6日

1. **現状認識**
**(外部環境、競合状況、制御事業OPEXビジネス拡大：
エネルギーサプライチェーン、LNGバリューチェーン、ライフサイクル)**
2. **中期経営計画 Transformation 2020の取り組み**
(略称：TF2020)
3. **今後の見通し**
4. **参考資料**

外部環境変化とYOKOGAWAの強み

エネルギー依存の従来型成長モデルの転換期、
当社の強みを発揮し、お客様とともに生産性革命を実現するチャンス

〈外部環境の変化〉

エネルギー資源の位置付け変化

新興国
経済鈍化

脱炭素

シェール
革命

石油の役割

デジタル技術革新

IIoT

ブロック
チェーン

AI

ビッグデータ

社会課題解決に向けた ニーズの高まり

SDGs



パリ協定
COP21

〈YOKOGAWAの強み〉

多様な業種ノウハウ

Chemical

LNG

Power

Down
Stream

Water

アジア・中東を中心とした豊富な インストールベース

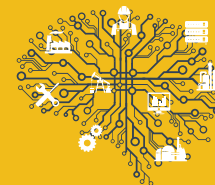
日本

中東

東南アジア

中国

課題解決能力



Synaptic
Business
Automation

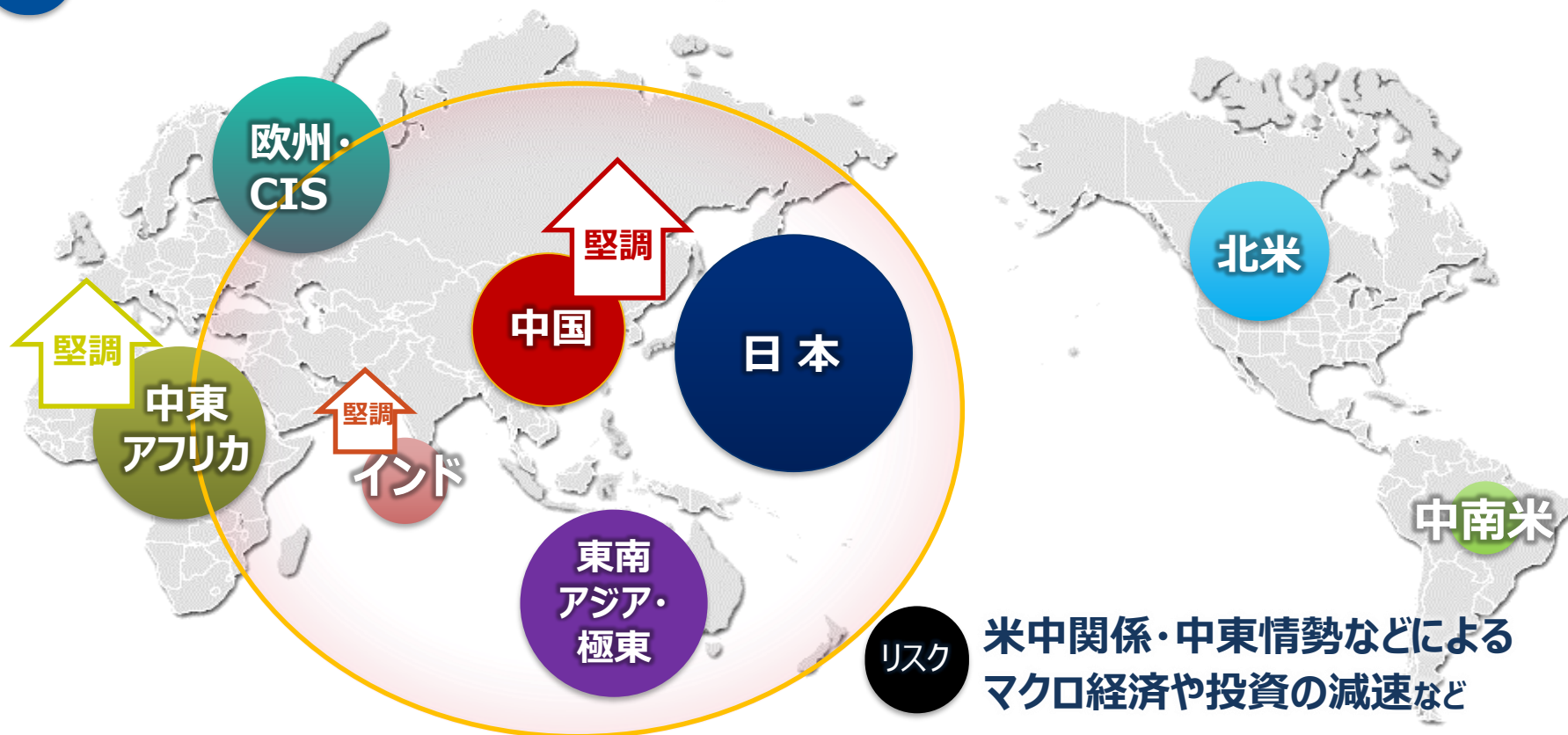


現状認識

市況 生産性向上目的の**OPEX投資が継続**、また**CAPEXでも投資マインドに回復の兆し**

地域 **中東・インドのシステム、中国の製品販売が堅調**で、**北米・ロシア**は機会に注目

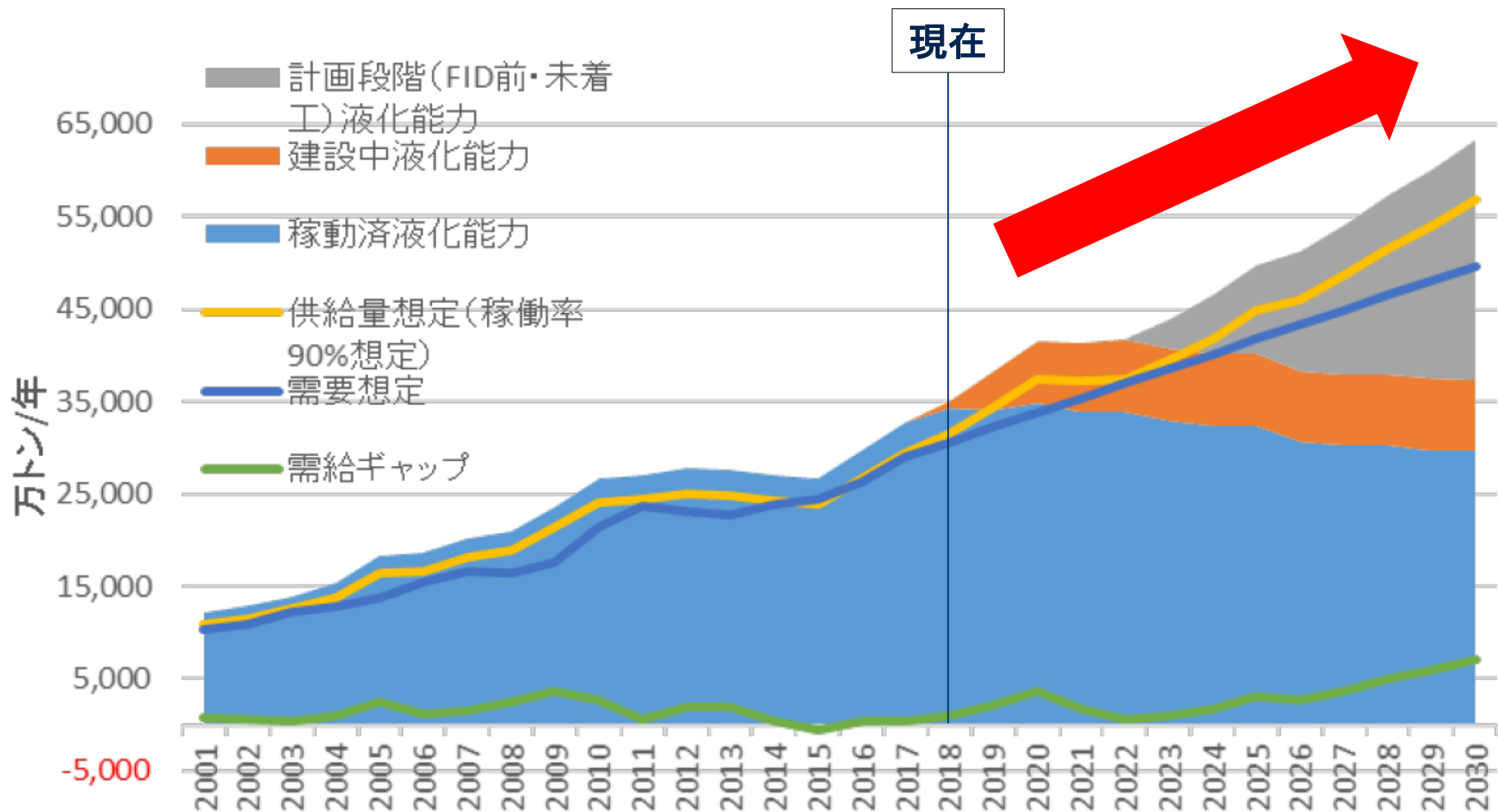
業種 **化学は堅調**、**LNGを含むガス**などUpstreamが増加傾向



リスク 米中関係・中東情勢などによる
マクロ経済や投資の減速など

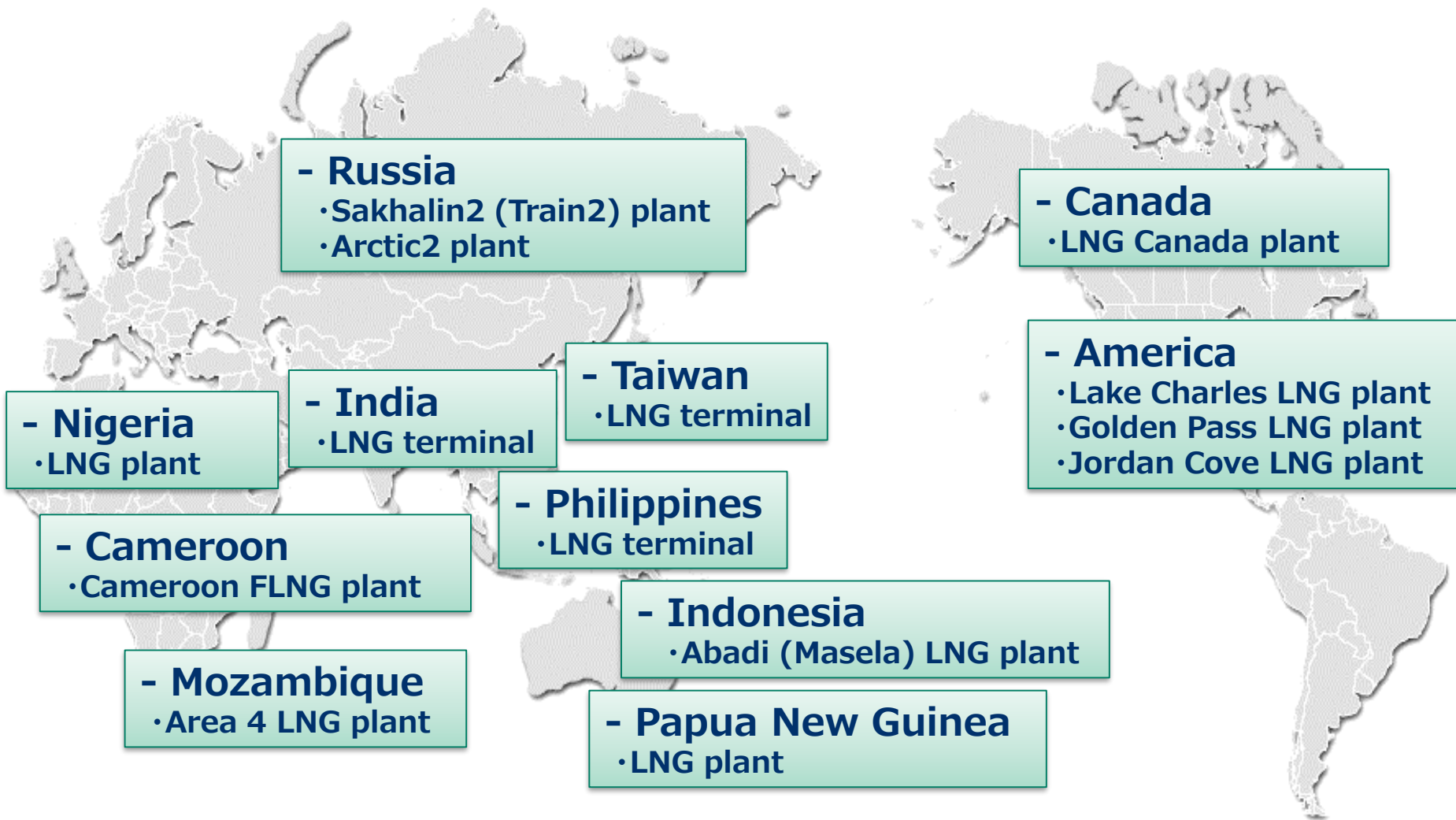
世界のLNG需給見通し

～継続的に需要が増加～



出典：JOGMEC「天然ガス・LNG最新動向(2018年1月以降のLNG契約合意、新規プロジェクトFID状況)」
 データ：IEA, Natural Gas Information、GIIGNL（国際LNG輸入者協会）、日本エネルギー経済研究所IEEJアウトック2018等
 を基にJOGEMC作成。※2024～2030年にかけては計画段階の2.4億トン/年が投資決定後、順次稼働と仮定

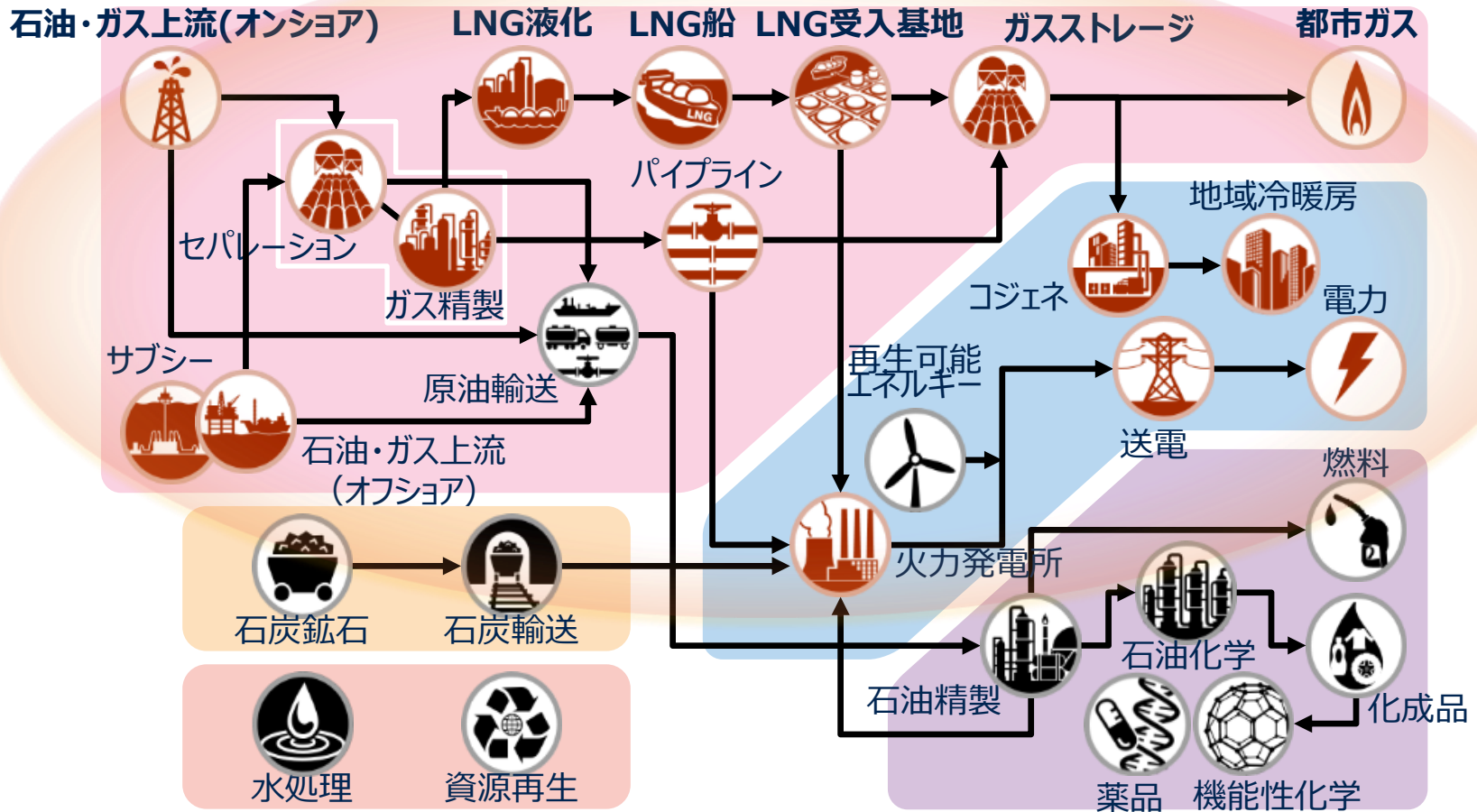
今後期待される公表済みLNGプロジェクト



JOGMEC公開資料などをもとに当社調べ

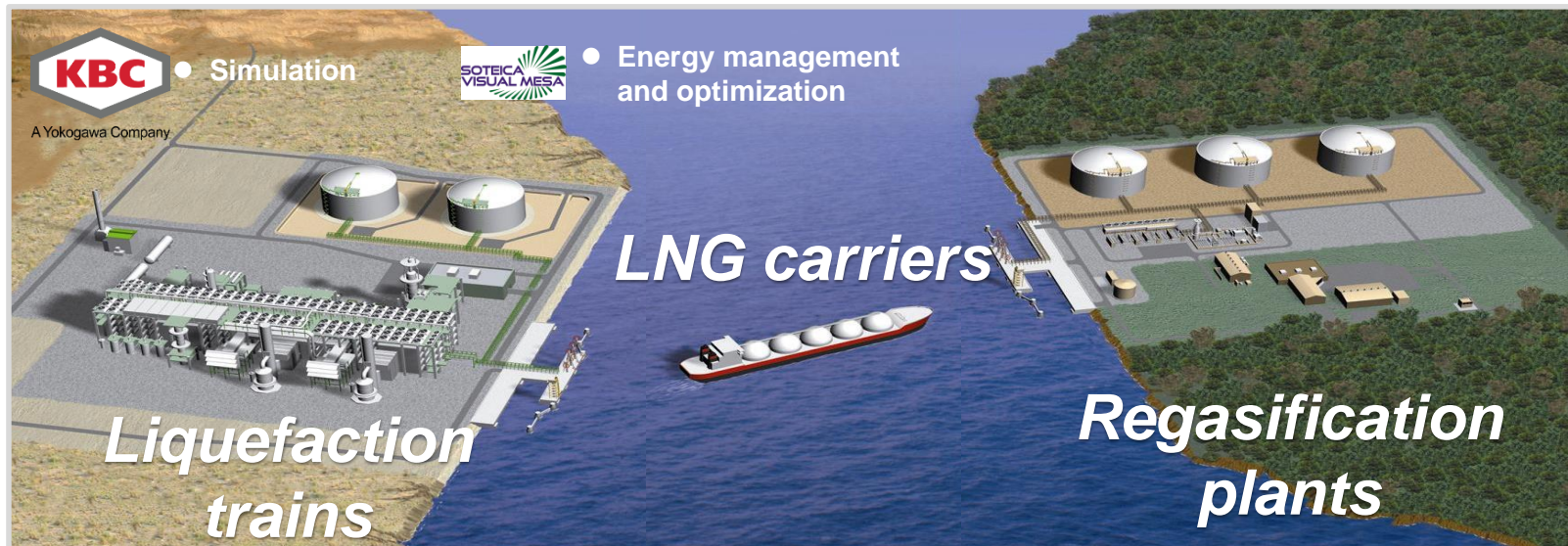
エネルギーサプライチェーンでOPEXビジネス拡大

石油・ガスの「採掘」から「都市ガス」の配送まで、サプライチェーン全体でビジネス拡大
マイナス160度を保ち続け「温度」「圧力」などを制御する、クリティカルな仕事に強み

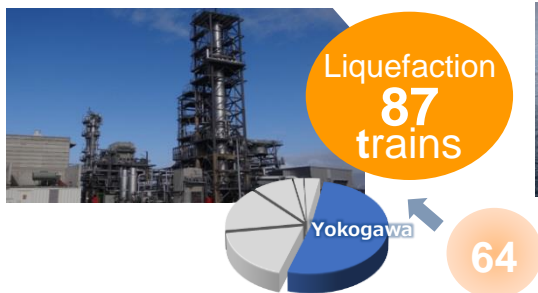


バリューチェーンでOPEXビジネス拡大

「液化」、「LNG船」、「気化」、「貯蔵」、「配送」のサプライチェーンにとどまらず、MES（生産管理）、シミュレーション、エネルギーマネジメントなど、**バリューチェーン全体でOPEXビジネスが拡大**



▶ LNG liquefaction



▶ LNG transportation



▶ LNG regasification



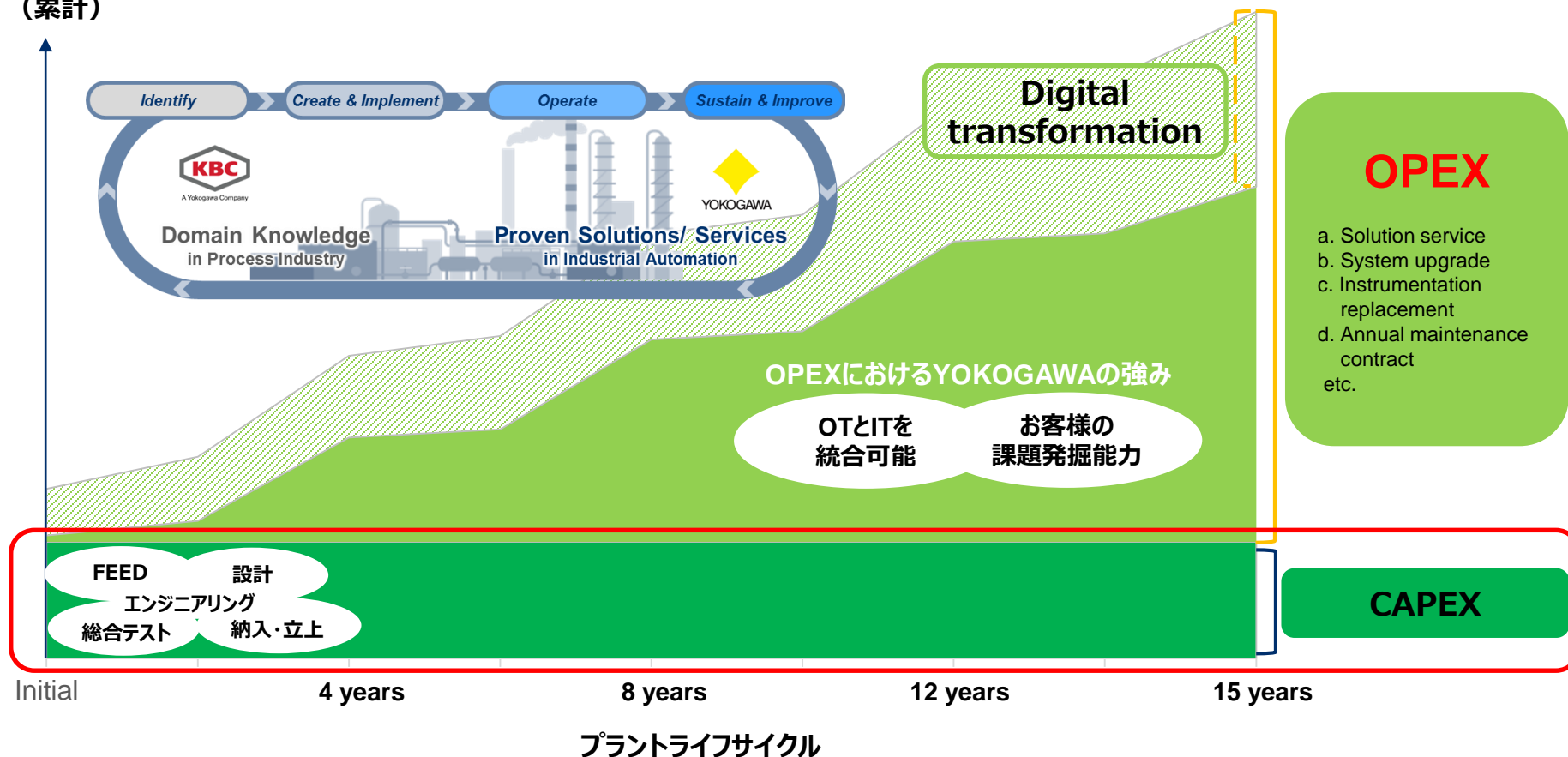
(シェア、実績：当社推定)

ライフサイクルでOPEXビジネス拡大（イメージ事例）

プラント建設時：CAPEX関連の当社受注額は、総建設コストの1～2%程度

OPEXはライフサイクル全体にわたり課題を解決する「積み上げ型ビジネス」

ビジネスチャンス
(累計)



Transformation 2020 の取り組み

- ・ 3つの基本戦略

- ① 既存事業の変革

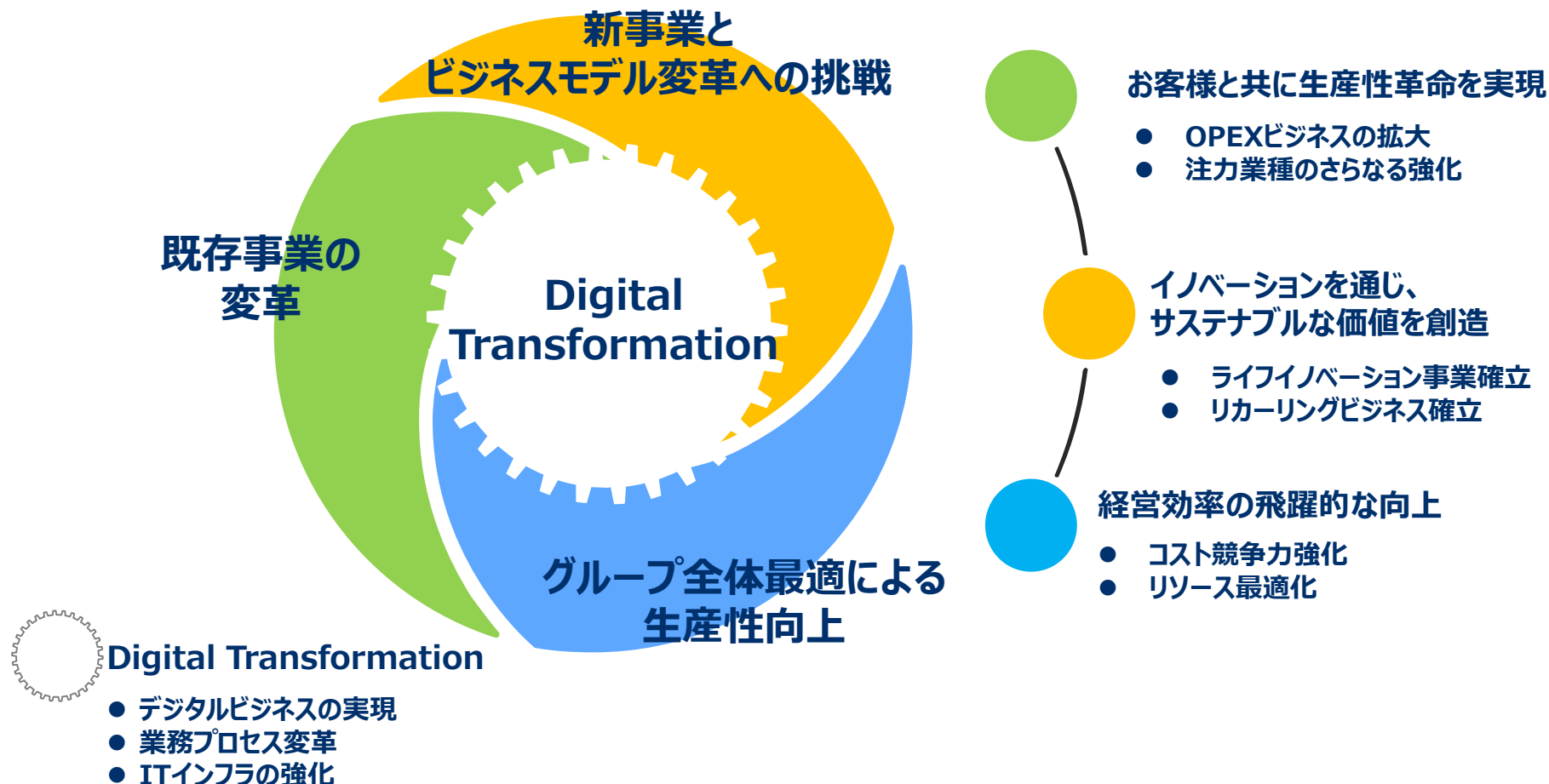
- ② 新事業とビジネスモデル変革への挑戦

- ③ グループ全体最適による生産性向上

- ・ デジタルトランスフォーメーション




「成長機会の創出」と「成長基盤の確立」

持続可能社会を実現する事業を目指して変革

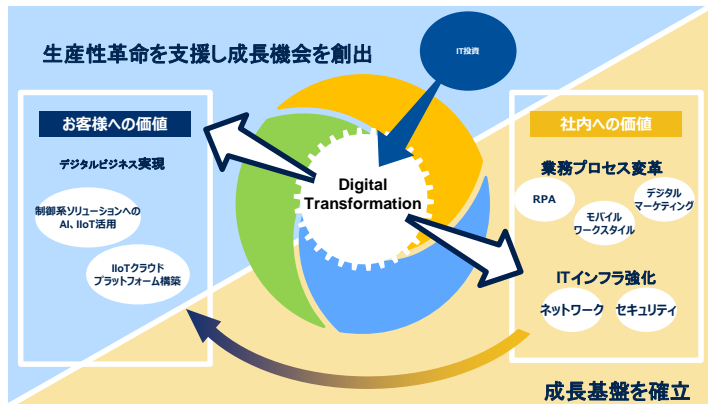


戦略への取り組み：3つの基本戦略



戦略	目標	主な活動状況
 <p>既存事業の 変革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インストールベースを中心としたOPEX ビジネスの拡大 海外OPEX成長率：7～10%/年 ・注力業種（化学、再生可能エネルギー） のさらなる強化 注力業種成長率：3～5%/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・OpreX™ブランドの策定 ・シェブロンとPETRO プランニングソフトウェアのグローバル販売契約を締結 ・ライフサイクルサービススコープの拡大 ・機能性化学向け営業強化(中国、北米) ・化学肥料向けビジネス強化(インド)
 <p>新事業と ビジネスモデル変革 への挑戦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフイノベーション事業の確立 新事業FY20受注：2～3倍(FY17比) *医薬品・食品産業向け受注 *FY17実績：100億円程度 ・リカーリング型ビジネスモデル確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオ抗体薬生産ソリューション向けビジネスの立ち上げに注力 ・人的リソースの拡充(14名増) ・アムニモ株式会社の発足 IIoTアーキテクチャの活用に注力
 <p>グループ 全体最適による 生産性向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的コストダウン (生産、調達、エンジ) ・グループ構造最適化 ・人財力強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・調達、物流コスト最適化 ・CEC(インド)の活用拡大 ・RPA導入による業務効率化 ・YOKOGAWA University開講 *Central Engineering Center

戦略への取り組み：デジタルトランスフォーメーション（DX）



今年度は下期中心に、
20億円規模の投資を予定
(戦略投資費用 + IT設備投資など)

戦略	目標	主な活動状況
<p>Digital Transformation</p>	<p>お客様への価値</p> <p>社内への価値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・IIoT導入支援サービス事業(amnimo)の立ち上げ ・プラントデータ活用型サービス製品のラインアップ拡充 ・セキュリティサービスビジネスの強化 ・ITアプリケーションのグローバル最適化プロジェクト開始 ・ITインフラのクラウド化推進(専門組織設置) ・RPAによる社内オペレーションの自動化

今後の見通し

- ・FY18業績予想
- ・TF2020経営指標

業績予想（修正後）

◆FY18：2期連続で増収増益、中計初年度に着実なスタートを切る

（億円）

	FY16 実績(A)	FY17 実績(B)	FY18 修正予想(C)	前年比 (C-B)	伸長率 (C÷B-1)
受注高	3,907	4,003	4,200	+197	+4.9%
売上高	3,914	4,066	4,100	+34	+0.8%
営業利益	316	327	360	+33	+10.1%
ROS(%)	8.1	8.0	8.8	+0.8pt	—
経常利益	330	333	360	+27	+8.1%
税引前利益	355	294	380	+86	+29.3%
法人税等	97	79	125	+46	+58.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	258	214	255	+41	+19.2%
EPS(円)	96.44	80.27	95.50	+15.23	+19.0%
為替レート 1米ドル=	108.95円	110.70円	110円	▲0.7円	—

市場環境が劇的に好転しない前提での受注・売上成長率だが、
中長期視点で経営を進めるなかでスタートとしては順調

▶ ポイント

- 注力分野の拡大と市場を上回る成長実現
- 市場環境に左右されない収益性向上の実現
- 注力分野への戦略的なリソース投入
- 利益成長、資本効率向上による最大限のキャッシュ創出

▶ 目標

受注・売上成長	3～5%/年
EPS成長	7～9%/年*1
ROS	10%以上 (FY20)
ROE	10%以上 (FY20)
オーガニックFCF*2	850億円以上 (3年累計)

想定為替レート（1米ドル）：110円

*1 成長率は、FY17の一時要因を除いた実質ベース
 (のれん等減損、貸倒引当金計上、資産売却等)

*2 オーガニックFCF：
 フリーキャッシュフロー (FCF) + 戦略投資 (3年累計700億円)

YOKOGAWAが目指す方向

- 中長期的視点での経営
- 「成長」と「効率化」の両面に、「変革」しながら挑戦
- 「事業価値向上」を最優先し、結果として「企業価値の最大化」を目指す

Transformation 2020

中期経営計画

「成長機会の創出」と「成長基盤の確立」

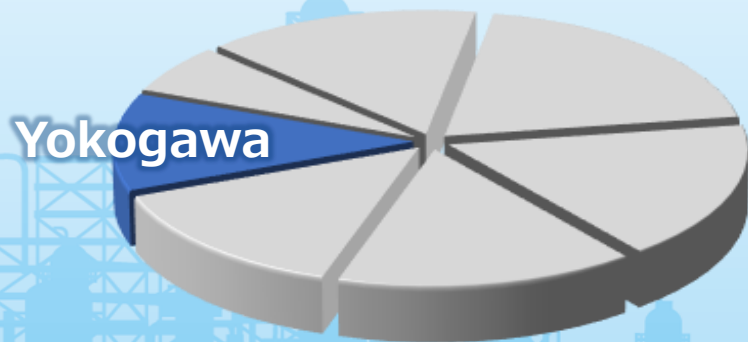
持続可能社会実現への貢献



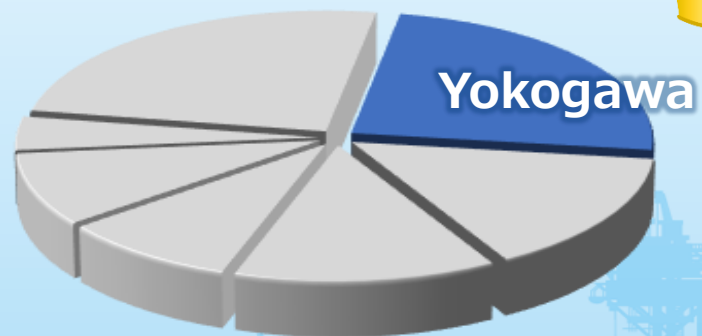
YOKOGAWAは、未来世代のより豊かな人間社会のために、2050年に向けて、Net-zero emissions, Circular economy, Well-beingの実現を目指します。

Co-innovating tomorrow™

Global market share
(market size US\$14.36bn)



Asian market share
(market size US\$4.92bn)



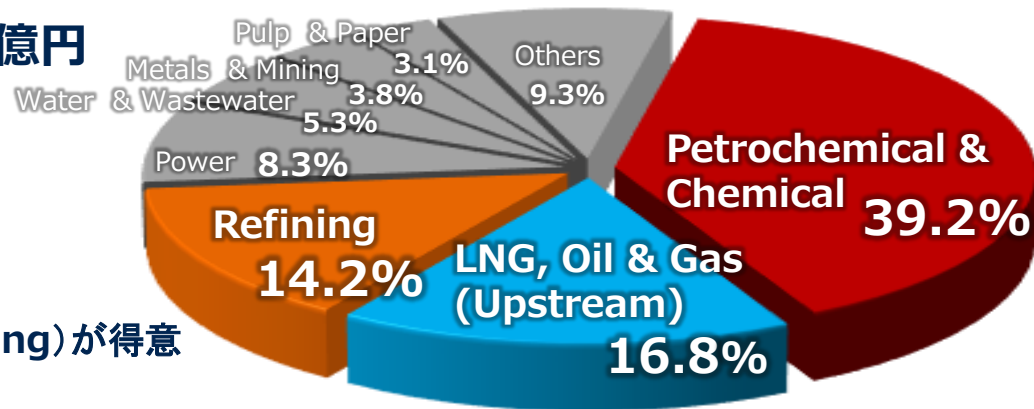
Source: ARC Distributed Control Systems Global Market 2017-2022

Yokogawa DCS sales: 1,939億円

- ・前年比+58億円(+3.0%)
- ・制御ビジネス全体(3,633億円)の53%

<特長>

- ・Downstream系
(Petrochemical & Chemical, Refining)が得意
- ・Upstream 16.8%の約半分がLNG



Source: Company data

<ご参考>

YOKOGAWAが採用されている主なESG関連インデックス

2018年9月現在

DJSI-Asia Pacific
FTSE4Good Index Series
MSCI ESG Leaders Indexes
CDP
MS-SRI
FTSE Blossom Japan Index
MSCIジャパンESG セレクト・リーダーズ指数
MSCI 日本株 女性活躍指数

MEMBER OF

**Dow Jones
Sustainability Indices**

In Collaboration with RobecoSAM



FTSE4Good



2018 Constituent
MSCI ESG
Leaders Indexes



FTSE Blossom
Japan



モーニングスター社会的責任投資株価指数
Morningstar Socially Responsible Investment Index



2018 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



2018 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数

本資料およびアナリスト説明会で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。

従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

当社がこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用すること等を禁じます。

また、本資料には企業連結に係る暫定的な会計処理の確定および税効果会計に係る会計基準の一部改正に伴う過年度訴求修正を反映しておりません。(決算短信とは軽微な相違があります)

横河電機株式会社

財務・IR部 IR課

Email : Yokogawa_Electric_IR6841@cs.jp.yokogawa.com

TEL : 0422-52-6845

URL : <http://www.yokogawa.co.jp/cp/ir/index.htm>